〈巻頭言〉

社会的共通資本としてのヘルスケアシステム

熊川寿郎

国立保健医療科学院経営科学部長

Health Care System As Social Common Capital

Toshiro KUMAKAWA

Director, Department of Management Science, National Institute of Public Health, Japan

1901（明治34）年に，ペルシアの古都スサから高さ2.23m，直径61cmの閃緑岩の円柱が発見された．その円柱の下部には約3,000行の楔形文字が刻まれていた．これが古代バビロニアのハンムラビ王が紀元前18世紀に発布した，世界で二番目に古く人類史上最も重要な成文法典の一つであるハンムラビ法典である．そこには一部欠損しているが282条の条文が刻まれている．215条から223条は医療に関する条文である．218条では「医者が重傷人をメスで手術して殺したり，目の膿瘍を手術して目を潰したら，彼の手を切る」，221条では「医者が人の折れた骨を治療し，腸の病気を治療したら，病人は医者に５シェケルの銀を払う」と記されており，当時すでにリスクマネジメントとコストの概念が存在していたことがわかる．また273条から275条は賃金に関する条文である．当時の通貨は銀であり，その価値は重さで表現されている．単位は１マナが500gであり，その１／60が１シェケル（8.3g），1シェケルの１／180が１シェ（46mg）である．273条では特殊技能を要しない日雇い労働者には１日５～６シェを支払うと記されている．

東京の最低賃金額は時間額791円であり（発効日H21.10.1.），単純に１日の労働時間を10時間とすればその日給は7,910円となる．この日給が古代バビロニアの日給５シェに相当すると仮定すれば，５シェケルは現在のわが国の貨幣価値で1,423,800円に相当する．221条における「医者が人の折れた骨を治療する」費用は５シェケルであり，その貨幣価値は約142万円ということになる．古代バビロニアの医療の水準を勘案すれば「医者が人の折れた骨を治療する」ことは，骨癒合が期待できる大腿骨頸部骨折骨接合術に相当すると考えることができる．今日の「大腿骨頸部骨折骨接合術」のDPCに基づいたトータル費用が約150万円である．ハンムラビ法典の条文には他にも同様の解釈ができる例がある．一方でOECD Health Data によると，加盟国の保健医療関連支出のGDP比の平均は1980年の6.6%から2006年の8.9%まで毎年上昇しているが，最近はその上昇率が鈍化している．これらのことを考えると，医療のアウトカムに対する評価は，たとえ時代や環境や文化が変わっても，人間社会に共通する何らかの便益評価基準に基づいて合意決定がなされているのかも知れない．

一般的に人々はある特定の財を自分自身が消費することにより何らかの便益を得る．しかしながら自然環境のように自分自身では消費しない財の存在を便益と認識し，進んで金銭の支払いをしようとする例もある．たとえば希少な魚が生息する原生地域を考えてみると，その魚に関心のある釣り人たちは，釣りをする楽しみのために原生地域の保存に進んで金銭を支払う．自然保護派を唱える人たちは，ハイキングや自然環境の観察をするのに最適な地域として原生地域の保存のために進んで金銭を支払う．近隣に住む住民は，景観美や望ましい住環境を維持するために原生地域の保存に金銭を支払うことに抵抗感はない．手つかずの自然を対象とする写真や映画の愛好者も，原生地域の保存のために進んで金銭を支払うであろう．これらの人々は，その原生地域をある用途に使うために金銭を支払うのである．しかしながら現実には，先に説明したような原生地域の使い方をするわけではないが，「原生地域が存在すること」そのこと自体に価値を認め，その保存のために進んで金銭を支払う人々がいる．

コモンズとは近代所有権制度が確立する以前から存在する山林，原野，牧草地，河川など私有でも公有でもない資源の共同利用地のことである．コモンズは人々にとって日常の生活資源を得るのみならず，生計の手段を提供する場でもあり，人々の利用が増えれば混雑現象も生じた．近年では地球環境問題に対する関心の高まりのなかでコモンズの現代的意義が再認識され，“Sustainability”や“Social Responsibility”の重要性が世界各国で活発に議論されている．東京大学名誉教授の宇沢弘文先生により提唱された” Social Common Capital （社会的共通資本）”は，国ないし特定の地域に住むすべての人々が，ゆたかな経済生活を営み，すぐれた文化を展開し，人間的に魅力ある社会を持続的，安定的に維持することを可能にする社会的装置を意味しており，コモンズにおいてはその最適利用を図るために混雑税を賦課するような仕組みとして認識できる．ヘルスケアシステムは社会的共通資本として最も重要なものであるが，そこには原生地域と同様に「ヘルスケアシステムが存在すること」自体の価値もある．

米国は市場主義経済を軸に社会が形成されており，これまでに国民皆保険制度が存在しなった．その米国において，2010年３月に医療保険改革法が成立し事実上の国民皆保険制度が実現した．社会的共通資本の概念は経済学のみならず様々な領域の学問が広く関係しているために未だ成長過程にある．しかしながら，21世紀のヘルスケアシステムのあり方を議論する上では必要欠くべからざるものである．